

発行所
秋田県合川町役場
編集責任者(広報係)松橋新一
総務課 電話4番
〔発行部数2,700〕

去る十三日開かれた町議会三月定例会において、畠山町長は、新年度の施政方針を次のように述べました。施政方針は町がことし一年このように進みたいということを書くべきものであり、町民のみならず深い理解と協力のものと明るく豊かな住みよい町づくりへ着実に前進することを望むものです。

昭和四十二年度予算案を
骨子とする三月定例町議会
の冒頭に、所懐の一端を申
し述べ施政の方針といたし
ます。

が自家の火を守り、火に対
するにもっと敬けんな心を
養ひ、一家を出さないよう
からは火事を出さないよう
心構えをつくりだすことが

を町民思想の根幹にしなけ
ればならないと思うもので
あります。

次の消防体制であります
が、一旦火災の発生するや

わが合川町の最大の恥は
喫緊の要務と考えます。
そのため特に各部落と、
現場附近に乗り入れる自衛
車のために消防自動車の通

一月五日の消防出初式に
としこそは無火災の記録
を樹立しようといひあつた
にもかかわらず、このよう
な事態とならずは、やはり
町当局や消防団の努力が
町民末端にその体制を浸透
させる点において大きな欠
かんがあると考えられ、そ
の非を率直に認めるととも
に、今こそ町民一人ひとり
であります。

実際に火を取扱う機会の多
い婦人の方々を中心に、火
災予防自主監察組織の確立
を図り、毎月一日を「全町
防火の日」と定めて末端家
々の警火活動を継続的に行
ない、若し危険が予察され
るものは直ちに消防団をと
おし警察官立会のもとに緊
急措置するようになる方針
であります。

行ができない事態を再三提
いておりますが、この非常
識もまた厳に戒めなければ
ならないことであり、また
消防団は非常線布く等の
適切な措置が必要であり
ます。

また出稼ぎ団員等の関係
もあり、器材の整備点検が
充分でなく、水利関係も同
様であります。



かねて公立米内沢病院に入院加療中のところ
三月二十二日午後二時三十二分逝去されました
享年六十九歳。

氏は昭和四年五月旧上大野村議會議員に當選以來、同村助役、議會議長をつとめ引続き合川町議會議員、副議長を経て去る三十九年四月議長に就任、永らく村づくり町づくりに功獻した。このほか町農業共済組合長、森林組合長、合川町農協理事、北秋田畜協組合長、合川高校運営委員などの要職にあつて地域の發展にも尽力された。なお葬儀は二十六日午後一時から上杉太平寺で営まれた。

交通安全

对策

私は消防団と話しあって財源の関係で当初予算に計上できなかったが町議会の同意を得て、自動車ポンプを一台購入し、役場職員全員をもつて一分団を組織し半常備的な運用によって九月一日から発足させる方針であり、新年度に入り次第その実行にとりかかるつもりであります。

よつて現在の消防体制は

交通安全 対策

交通安全運動は、今や民の悲願がこめられたものとなっておりますが、順都市の事故に比べて農村の事故が激増の傾向となきておるのであります。わが町も交通安全運動町政の重点目標とし、町

社会福祉宣言の町

心の自立と自衛を中心として、その万全を期することによって、実に団員の不足による隘路を開き、身近かな警火、身近かな消防行政を推進する所存でありますので、何卒、火災の町合川の汚名返上に町民総参加の運動の推進にご協力をお願いする次第であります。

交通安全協会支部、小中学校を中心とした学校全運動とともに町民各層啓発こそ当面の目標と大きくとりあげられるべきものでありまして、交通全についても、町民総会の運動として継続的に推

昭和四十二年度より毎年度に牛乳の無料給食も実施

昭 和 四 十 二 年 度 より 毎 年 度 に 牛 乳 の 無 料 給 食 も 実 施	昨 年 九 月、本 議 会 は 社 会 福 祉 宣 言 の 町 を 決 議 さ れ ま し た が、当 局 と し て は そ の 趣 旨 に 基 き、町 民 福 祉 の 向 上 に 一 貫 し た 方 針 を 樹 立 し た い と 存 じ、大 綱 を と り ま と め て お り ま す が、第 一 に な っ て お り ま す。	日 業 務 を 開 始 す る こ と に な る に、特 に こ の セ ン タ ー で 分 り 別 れ る 助 産 費 用 に は 大 幅 な の 負 担 が 軽 減 さ れ る こ と に な っ て お り ま す。
---	---	--

一〇〇万円を積立し十カ年に一、〇〇〇万円を備蓄して町民福祉の財政的裏付けは旧来個人負担を伴ったものでありますが、この経費を生制度を更に充実したものにしたいと考えております。

飲料水に不適の多い鎌沢部落の簡易水道工事を発注しておりますが、四月一日給水開始のはこびとなっております。	合川町の生活保護の状況は世帯比四・一割、人口比二二・五割となっております。
また母子健康センターも多年婦人の待望されてきたものであります。四月一	北秋田郡の平均値となっておりますが、全県的にみるとその比率は比較的高く、生活に困難な階層が多いことが立証されておりますの

策の充実が痛切に感じられる次第であります。

樂觀を許さないものであります。

町民健康

合川町国民健康保険診療療養施設
 設立合川病院は、公営
 町民健康
 七ツタ

ました。

またこの病院と先に申しあげました母子健康センター、それに町民課所管の衛生指導の三つの事業を総評して、運営上条例に規定し合川町民健康センターと呼称し、文字とおり町民の健康センターとしての三者の進協議会長として、果して国に強力な陳情を行なったのであります。

とりあえず昭和四十二年度八〇〇万円の国の調査費が認められ、いよいよその第一歩を踏み出すことになるわけであります。

また全町圃場整備について

農業の施策としては、
害対策事業として健苗畜
指標田設置、畦道農業相
病害虫検診、作況調査等
一依増産運動としては護
会の開催、六五〇^〇取

大野台開田と

全町圃場整備

保険税もまた非常に負担が累積している実体からこれを昨年同額に据置くこととしたしました。また資産割一〇割の撤廃の意見もありますが、これは直ちに所得割と人頭割に転嫁されるので旧来の課税方式を採用することにいたしました。

企業法の一部適用をうけ、新年度から国民健康保険から独立し、町立合川病院として企業会計により新発足することになりました。

よって昨年度改装した手術、レントゲン室、給食棟等への投資を一般会計から一七七万円を繰出して町立

機能を充分發揮すべく運営會議により年間計画と月別計画を樹立して施策を推進することにいたしました。

なお運営審議會を設け町民のなかから十名の委員を委嘱して随時運営状況を公表し運営に関する意見を聴取する方針であります。

では、全町約一、二〇〇鈐の内、沢々を除き約八〇〇鈐を県営で耕地整理をし、農道、水路を完備しようとするもので、これについては、昭和四十二年度の費用五〇五万円が決定になり、調査が開始されるわけでありませう。

作会、病害虫防除体制の
立等、また集団栽培の推
モデル農家の設置、部
別グループの育成、農業
継者の育成については一
一研究の推進、国内留学
実施等を計画しておりま
葉たばこ及び加工用ト
トの奨励は昨年に引き続

保育料については、旧来合川町は基準より下回った材料金といたしておりましたが、一般財源の投入が極度に累増している関係から最高制限額を引き上げることにになり高額所得者の保育料は引き上がることになりました。これについても種々意見もあるのですが、町財政の苦しい現況からみて高額所得者のみを優遇すべきでないとする意見を採用了たものであります。

国民年金については、納

昭和四十二年度の合川町における最大として最重点施策は大野台国営開拓パイロット事業の促進であり、そして全町圃場整備事業の促進であります。

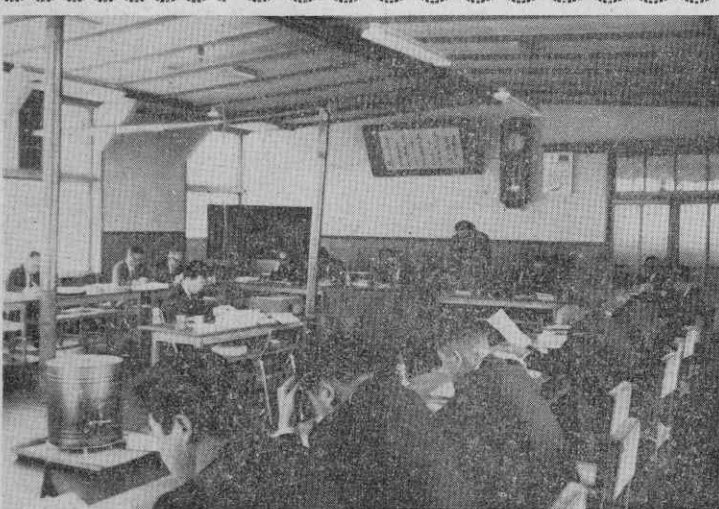
大野台については関係農家二、四〇〇戸、二、四〇〇畆の国営開田が五六億円の巨費を投じて行なわれる

計画であり、森吉町、鷹巣町と三町の関係する大野台が、過去において種々国果の費用と農民の辛苦を積み重ねたのでありますが、結局公共投資が少ないことが最大の原因となつて充分な成果をあげることが出来なかつたのであります。このたび関係各部落の同意を得

て行ないます。

昨年産米米価運動の過から生れた稲作改善対策別事業は約二六〇万円での町農道補修を中心にその事業が行なわれる方針であります。

林業については、昨年衛隊のヘリコプターに接する機会に機上からみた川町は針葉樹地帯とみえるにもかかわらず、民有はかつ葉樹及び槲皮山が多山林の経済効率が非常なことが痛感されたので



新年度予算きまる!!

= 總額 266,187 千円 =

前年比 26,125千円の増加

二十二議案について連日慎重な審議の結果いづれも原案どおり可決、商工会に対する助成など八件の請願を採択した。

なお、畠山町長はこの議會で別項のとおり新年度の施政方針と予算の概要について説明したが、四十二年度当初予算の総額（一般、特別各会計）は、二億六千六百八十七千円となり、前年度の当初予算にくらべ二千六百十二万五千円の増となっている。

その他の放流を継続した関の沢溜池の養鯉事業は資金の利子を補給する針であります。

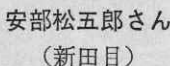
酪農については、資質善による搾乳の高度化を期し、また乳質改善にも努めたいと思います。

飼料作物の栽培技術の向上を図るとともに複合経営の研究、育成技術の向上期し更に生産者組織の強化こそは、これ等酪農技術根幹となるものと考えてります。

△以下二面へつづく▽

第十二回町制施行記念日に

三月三十一日は、わが合
で町内各層の方々の参加
は、その設立委員長におされ
町が誕生してから十二回
が期待されます。



四月一日から開業

入所料（十日間入所した場合です）

大先輩、大いに語る

【話題にはずむ大先輩】

書物にたよったり技術指導にたよったりしているが、実際に農業をやっている指導者は少なく残念なことである。

りしているようなものだ。そこで公民館なり農協なりが農閑期を利用した技術指導をしてはどんなものでしょうか。

現在の稲作を考えてみる 藤島 私の家族構成は、子
とますけい酸が少ないこと 供六人、親二人、私どもも二
があげられる。素糞を堆肥 人という大家族でそのため
がわりに入れている人もいる 生活は苦しいものであった
ないので基本的に関連って 子供無しであったので
子供に教育に全てをかけた

植付本数にしても過去の経験から一本植えがよい、一本植がでないなら三本以上でないと良い。

子供にそのことで苦勞させないことをモットーに生きてきた。

生活が苦しかったので農業以外から収入を得るために果樹でも青森リンゴ、桃、桑、桑子、重子、眞二舌

や能代ナスに虫が全入つていないが、これは猫入らずを根元につけているからである。これを三年勵行すると何虫でも完全に死滅する。

足田 今年で六十二歳になつたが、歩んできた道をふり返ると短かい人生であつたようだ。

それは大正十四年青年訓

うことではなく苦境のなか
越える持続性これがこれか
の農業青年に必要な警句
である。

畠山町長 今日は大変な教訓を得ました。このあと壮

練所に入。徴兵検査後シベリヤ出兵、六年の滿州事変十二年の支那事変そして十六年の大東亞戦争と召集を受けそれを何回となく繰返している内に農業に身を入とうございました。

式で

納め忘れなどによる年金給付事故を未然に防止することができます。なお納付通知書は手帳保管証も兼ております。

▽保険料納付場所として 次の手帳更新時期（昭和四

◆年金手帳の保管手続済（すでに皆さんの手帳が役場に保管されているもので

事務の円滑な推進にご協力をお願います。

を用いて郵便局から送金す

い。（皆さんの手帳が、
よう皆さんご注意下さい）

1、通知書の表紙裏が領収

◆四月を過ぎるとこの通知
ものです。

内に納めましょう。(第
や官公署の共済年金)の加

和四十三年四月三十日」の
などの場合は必ず係にお届
け下さい。

の保険料は翌年度の五月一
つでも役場にお問い合せ願

日以降は市町村で収納する
ことができなくなっております。

